

大項目		中項目		小項目		回答
1	基本仕様	1	共通	1	本院の病院情報システム（以下HIS）と窓口支払機をTCP/IP方式でLAN接続し、ソケット通信で送受信が行えること	
1		1		2	HISから送信される請求情報を受取り、請求金額が画面に表示できること	
1		1		3	HISから送信される内容により、本院の運用で窓口支払機での収納を制限できること	
1		1		4	請求金額が入金されることにより、HISの未収情報が入金済みになること	
1		1		5	HISと連携しない項目について、入出金処理ができること	
1		2	窓口支払機本体	1	窓口精算機の台数は1台とする	
1		2		2	以下のいずれの操作でも、本体画面に未収の外来及び入院費の請求額が表示できること ・診察券（磁気カード・JIS II 型）をカードリーダーで読取った場合 ・患者IDのバーコードが印字された任意の用紙をバーコードリーダーで読取った場合 ・患者IDを入力した場合	
1		2		3	画面は15インチ TFTカラー液晶画面、タッチパネル方式であること	
1		2		4	HISから送信される情報により、患者氏名、受診年月日、診療科名、請求額（受診日・受診科毎）、請求額合計が画面に表示できること	
1		2		5	受診年月日、診療科名及び請求額は10件以上画面表示できること	
1		2		6	複数の請求がある場合、請求単位で入金が行える機能を有していること	
1		2		7	任意の金額を指定して入金が行える機能を有していること	
1		2		8	医事システムから返金データを受け取り、返金可能な機能を有していること	
1		2		9	HISと連携しない入出金項目の名称、金額の登録が任意にできること	
1		2		10	紙幣合計400枚以上、硬貨各金種100枚以上収納できる構造であること	
1		2		11	紙幣は取り込み時のエラーが少ない長手方向挿入であること	
1		2		12	入金処理において、以下の金種の取り扱いができる構造であること 紙幣 全金種（一万円、五千円、二千円、千円） 硬貨 全金種（500円、100円、50円、10円、5円、1円）	
1		2		13	入金方法において、紙幣20枚以上・硬貨50枚以上の一括混在投入ができる構造であること	
1		2		14	出金処理において、つり銭として利用する以下の金種の取り扱いができる構造であること 紙幣 一万円、五千円、千円 硬貨 全金種（500円、100円、50円、10円、5円、1円）	
1		2		15	一万円、五千円、千円及び硬貨の全金種は還流できる構造であること	
1		2		16	紙幣硬貨ともに真偽判定をする機能を有していること	
1		2		17	2024年7月に発行する新紙幣に対応する機能を有すること	
1		2		18	出金口にLEDランプを搭載し、取り忘れを防止する機能を有していること	
1		2		19	エラー解除の際はアニメーションで解除方法のガイダンスが行えること	
1		2		20	現金管理の厳正化の観点から、高額収納の紙幣部には、カセット鍵に加え、カセット抜き取り鍵を搭載していること	
1		2		21	自動精算機と同一メーカーであること	
1		2		22	つり銭交換機能を有していること	
1		2		23	定額のつり銭を機内に残す機能を有していること	
1		2		24	使用者を限定するためにログインID/パスワード（英数字）の入力機能を有していること	
1		2		25	窓口支払機は独立して運用でき、制御装置は不要であること	
1		2		26	硬貨釣銭機と紙幣釣銭機は分離でき、左右入れ替えが可能なこと	
1		2		27	釣銭機への紙幣挿入は、詰まりにくい長手方向挿入方式であること	
1		2		28	釣銭機・操作ユニット以外に、PC本体などの機器が不要なこと	
1		2		29	障害発生時に全システムの停止を避けるため、コントローラ（管理サーバ等の通信中継装置）を介さず、個々の精算機と医事システムが別々に通信できること	
1		3	領収書、診療明細書発行	1	領収書は自動精算機と同一のものが発行できる機能を有していること	
1		3		2	エラー発生時に領収書を再発行できる機能を有していること	
1		3		3	0円の領収書について出力可否を選択できること	

大項目		中項目		小項目		回答
1		3		4	HISから送信される情報により、診療明細書の発行に対応できること	
1		3		5	診療明細書の出力可否を選択できること	
1		4	デビットカード、クレジットカード取引	1	クレジットカード、デビットカードでの支払い時の入金区分をHISに送信できること	
1		4		2	支払い時の入金区分の選択はクレジットカード、デビットカード払いを利用する場合のみ発生すること (現金払いの場合は操作不要であること。)	
1		5	拡張機能	1	オプションとして、クレジットカード会社が提供するカード決済端末との連携が可能であり、連携時には金額の二度打ちが不要となること	